

## 1 つぎのお話を よんで もんだいに こたえましょう。

ある日、みおは、お母さんといっしょに、雨の中をバス停まで歩いていました。

空はくもっていて、雨はしとしとふっています。

くつの先がぬれて、「早くつかないかな」と思い、みおはすこしいらいらしていました。

バス停につくと、すでに何人かの人がならんでいて、みおはかさをぎゅっとにぎりました。

つめたい風がふいて、服のそでもすこしぬれてしまいました。

そのとき、前に立っていたおばあさんが、かさをさしているのに、かばんがぬれているのに気づきました。

みおは、どうしようかまよいました。

「ぬれるといやだろうな」と思いながらも、しばらく立ちどまってしまいました。

でも、えいっとこころをきめて、そっとじぶんのかさをずらししました。

「いっしょにどうぞ」というと、おばあさんはびっくりしたかおで、「ありがとう」とえがおになりました。

みおは、さっきまでのいらいらがなくなり、こころがすこしあたたかくなっているのに気づきました。

「ちょっとしたことでも、だれかのやくに立ってるんだな」と思い、くつのぬれもきにならなくなりました。

バスにのりこむとき、みおはもう「えがおになりました。



(1) みおは、なぜはじめ、すこしいらいらしていましたが。文の内容にそって書きましよう。



(2) おばあさんにかさをずらしたあこのみおの気もちとして、いちばん近いものをえらび番号を○でかこみましよう。

- ① まだいらいらがのこり、気が落ちつかない気もち
- ② まわりのようすが気になり、心配でいっぱいな気もち
- ③ だれかの役に立てたことがうれしく、気持ちがいやわらいだ気もち
- ④ じぶんのしたことをこうかいして、気が重くなった気もち

(3) つぎのできごとを、文の内容に合うように、正しいじゅんにならべましよう。

- ① おばあさんがえがおで「ありがとう」という。
- ② みおが、バス停でおばあさんのかばんがぬれているのに気づく。
- ③ みおが、じぶんのかさをずらす。
- ④ みおが、はじめすこしいらいらしている。



## 1 つぎの お話を よんで もんだいに こたえましょう。

ある日、みおは、お母さんといっしょに、雨の中をバス停まで歩いていました。

空はくもっていて、雨はしとしとふっています。

くつの先がぬれて、「早くつかないかな」と思い、みおはすこしいらいらしていました。

バス停につくと、すでに何人かの人がならんでいて、みおはかさをぎゅっとにぎりました。

つめたい風がふいて、服のそでもすこしぬれてしまいました。

そのとき、前に立っていたおばあさんが、かさをさしているのに、かばんがぬれているのに気づきました。

みおは、どうしようかまよいました。

「ぬれるといやだろうな」と思いながらも、しばらく立ちどまってしまいました。

でも、えいっとこころをきめて、そっとじぶんのかさをずらししました。

「いっしょにどうぞ」というと、おばあさんはびっくりしたかおで、「ありがとう」とえがおになりました。

みおは、さっきまでのいらいらがなくなり、こころがすこしあたたかくなっているのに気づきました。

「ちょっとしたことでも、だれかのやくに立ってるんだな」と思い、くつのぬれもきにならなくなりました。

バスにのりこむとき、みおはもう「どえがおになりました。



(1) みおは、なぜはじめ、すこしいらいらしていましたが。文の内容にそって書きましよう。

解答例) 雨にぬれてくつの先がぬれ、「早くつかないかな」と思ったから。

(2) おばあさんにかさをずらしたあこのみおの気もちとして、いちばん近いものをえらび番号を○でかこみましよう。

- ① まだいらいらがのこり、気が落ちつかない気もち
- ② まわりのようすが気になり、心配でいっぱいな気もち
- ③ **だれかの役に立てたことがうれしく、気持ちがいやわらいだ気もち**
- ④ じぶんのしたことをこうかいして、気が重くなった気もち

(3) つぎのできごとを、文の内容に合うように、正しいじゅんにならべましよう。

- ① おばあさんがえがおで「ありがとう」という。
- ② みおが、バス停でおばあさんのかばんがぬれているのに気づく。
- ③ みおが、じぶんのかさをずらす。
- ④ みおが、はじめすこしいらいらしている。

④ ↓ ② ↓ ③ ↓ ①